

直接 請求

西・亀居 両保育所の存続 賛成少数で否決

ふじみ野市立保育所の設置及び管理条例の一部改正



廃止となった西保育所

議案審議までの経過

平成 27 年
2 月 13 日

請求代表者から選挙管理委員会に西・亀居保育所廃止に反対する署名簿（総数：2443 人）が提出される。

3 月 5 日

選挙管理委員会において審査の結果、署名の効力（総数：2338 人）が確定する。

3 月 12 日

市長はそれを受けて「ふじみ野市立保育所の設置及び管理条例の一部を改正する条例」案に意見を付して 3 月定例会に提出する。

3 月 17 日

3 月定例会において、同条例案が賛成少数で否決される。

この条例案は地方自治法第 74 条に基づく直接請求（住民の 50 分の 1 以上の署名による条例の改廃請求）によって、提案されたものです。

ふじみ野市議会で直接請求による議案が審議された初めてのケースとなりました。

市長意見書

民間企業等により開発された耐震工法は数多くあるが、埼玉建築設計監理協会が策定したマニュアルに基づいた耐震工法を選択するのが最善と判断する。また、待機児童解消は重要な政策課題だが、この実現には安全・安心な保育環境の提供が不可欠である。来年度、新たに 4 園の認可保育所の建設を進め、定員の拡大に努めていく。

請求代表者の意見

大阪府の中核市、枚方市では軽量鉄骨の幼稚園・保育施設 13 カ所で、独自のマニュアルに基づく工法を用いて耐震工事を実施し、継続使用している。深刻化する待機児童対策として、同工法を採用すれば、コストをかけずに廃止する西・亀居の両保育所、さらに亀久保・鶴ヶ岡の保育所も継続して活用できる。

● 主な質疑
問 待機児童は 200 名を超えているのか。
答 待機児童の見込み数は現在 18 名となっており、昨年同時点の 24 名よりも少ない。
問 なお、認可保育所への入所を希望して入れなかった児童は 205 名で内訳は育休中・休職中などの家庭の児童 137 名、家庭保育室幼稚園で保育を受けられる児童 46 名などとなっている。
問 なぜ枚方市の工法を十分検討しなかったのか。

● 討論
問 市では埼玉建築設計監理協会による軽量鉄骨造の耐震診断マニュアルに基づいて耐震補強を行う方針である。枚方市の工法についても検討したが、必要となる第三者機関の評価を得ることができないと判断した。
答

● 討論
問 子どもへの安心・安全が最優先。保育の継続もなされている。公民対立でなく、保育の質を守る議論の場をつくるべき。
答

● 討論
問 子どもへの命を守るのが最優先。耐震化を急ぐべき。
答

● 討論
問 安全第一。児童は別の安全な施設への転園準備が進んでいる。
答

● 討論
問 枚方市の工法は全国的に確立されたものではない。
答

● 討論
問 公立は保育の水準保持に必要。国に公立への補助を求めよ。
答

● 審議の結果
賛成少数で否決

平成 27 年度 一般会計予算討論

賛成多数で可決

誠風会 小高時男議員
賛成 「あったかいふじみ野市」を目指した事業展開を評価

新たな認可保育所に向けた運営費、整備費補助や、児童発育・発達支援センターの開設などの子育て支援事業に加え、「元気・健康都市宣言」に係る健康づくり事業、市制 10 周年関連事業など、さまざまな事業展開の計画や、我が会派が指摘している運動公園の整備に関する予算措置も行われており、大きく評価するものである。

信政会 島田典朗議員
賛成 各分野への適切な積極的予算編成を評価

人口増に伴う市税の増収だけでなく、徴収率も向上している。部局長マネジメント力の発揮などの新たな手法が取り入れられ、主体的な予算措置が組み込まれた。各事業のスクラップ・アンド・ビルドも進められ、今後も経営的視点に立ち、多様化する行政ニーズ、課題の解決にスピード感をもって対応することを要望する。

公明党 堀口修一議員
賛成 一人と向き合う市政に期待

本年は市制 10 周年の佳節を迎え、次の 20 周年へ向けての大きな節目にしていかなければならない。各事業において、市民一人ひとりの声に耳を傾けていくという思いが重要。その意味で、福祉総合支援チームの設置を評価するものである。10 周年を起点として「我がふるさと ふじみ野市」としてさらに実感できるよう、まちづくりに邁進されることを期待する。

日本共産党 塚越洋一議員
反対 基金の有効活用を

急激な民営化が進められ人件費は減少したが、委託料は増え続けている。合併特例措置の終了後、不足する財源に充当すると言って、受益者負担の名の下に市民の負担を増やして各種基金を「ためこむ」ことで数年間はもつが、基金は使ってしまうとそれで終わりだ。基金の有効活用で、市民の願いに積極的に応えるべきだ。



平成 27 年度ふじみ野市新規採用職員研修

かがやき 21 五十嵐正明議員
賛成 きめの細かい行政サービスに期待

開発による人口増で市税の増収が見込まれている。今後も安定した自主財源の確保に努めてほしい。市内循環バスは、民間とは別に、あえて行政がバスを運行する目的を明確にすべきだ。協働事業は、行政からの押しつけにならないように留意してほしい。福祉分野では、個人の事情に応じたきめの細かい行政サービスが期待できる。

無所属 小林憲人議員
賛成 後年度負担の軽減と子どもたちへの各施策を評価

減債基金を活用した繰上償還や交付金削減の回避は評価できる。今後も慎重敢為な行財政運営に努められたい。また、児童発育・発達支援センターや放課後児童クラブの建設など、次世代を担う子どもたちへの各施策も評価できる。全ての施策が 11 万市民の笑顔につながり、誰もにとって住みやすいまちになることを期待して、賛成とする。

無所属 谷 新一議員
賛成 バランスのとれた予算を評価

歳入では市税増収による安定した自主財源の確保と収納率アップが評価できる。歳出では、新設保育園の運営費など子育て支援策の拡充や地方創生のベースと期待する企業誘致・交通体系調査等、地域包括ケアに不可欠な総合福祉相談事業等が予算措置された。タイムリーかつ将来投資と担保のバランスのとれた予算として評価する。